

## カルト二世問題

数人のご信者から「NHKで宗教二世を扱う番組がありました。観ましたか」と聞かれてやや雑談……。私は番組は観ていませんが、今年、数回の放映があったことや、その内容の概略は知っています。親の信仰を強要され、人生が狂わされたとの話しは、視聴者の興味を引きます。今は多様な価値観が尊重され、職場や学校でも教育か圧力かの線引きが難しく、一つ間違るとパワハラ等で訴えられたりするご時世ですから、個人の自由を主張する子どもにご信心の話は難しいなあと思ふ人には、天下のNHKの報道は衝撃だったでしょう。ただ、今回の報道姿勢には問題点も指摘されています。内容は以前からの社会問題、「カルト二世」を取り上げたものですが、番組はカルトと言わずに「宗教二世」と表現しました。ために、宗教以外のカルトは対象をはずれ、真つ当な宗教は偏見を受ける可能性を得ました。番組で扱ったのは、内容から「ものみの塔(エホバの証人)」と「統一教会(世界平和統一家庭連合)」の信徒ですが、団体名は伏せられたため、この特殊なカルト教団が宗教問題の代表のような印象も与えました。更には団体の特殊な指導には触れず、親子の問題のように構成されたため、信仰の素養がない多数派は、どの宗教でも起こり得る問題に感じたと考えます。風当たりの強い部分は巧みに避けて大衆の関心を煽る、メディアのあざとさを感じる報道でした。

カルト問題は、専門家の議論も答えが出ないほど複雑で、もとはキリスト教圏の信仰形態を表す宗教学の用語が、今は反社会的な集団の蔑称べっしょうになっています。言葉の意味が変わったのは、昭和53年に米国からガイアナに移住した人民寺院信徒九百人の集団自殺の報道で、マスコミが危険な宗教団体を指して用いて負のイメージを作りました。日本では平成2年頃から統一教会の信徒を奪回する反カルト集団が使いはじめ、平成7年のオウム真理教事件以降、マスコミが犯罪を伴う反社会的集団を指して用いて広く認知あいまいされました。

カルトの定義は様々ですが、概ねカリスマ的な指導者が崇拜の対象で、教義は曖昧ながら独善的な価値観への服従を強く求め、経済や心理、性が支配されると説明されます。とすれば、教祖を神仏とする大手の新興宗教がいくつかピタリとはまりますが、それと佛立信心を同列にしてはなりません。我が祖師は「日蓮はいずれの宗の元祖にも非ず」と仰せで、人ではなく仏の教えを守るゆえに「佛立宗」と呼ばれました。この一事でも、謙虚に法を求める純粋な信仰が表れます。自信を持って、正しい功德の積み方を教えてください。

なお、ご参詣や御有志等の意味を教えず「ご奉公せよ」「罪障だぞ」と従わせる育成は、今の時代はカルト二世的な印象を与えると今回の報道で感じました。説明の仕方に困って丁寧に教えないケースが多いのですが、ご信心の「なぜ？」は概ね御講で学びます。カルト宗教と思われぬよう、正しく教えるための聴聞に努めてください。

7月26日からの夏期参詣も、若い世代がご信心を学ぶ機会です。家族揃って善聴参詣ぜんちようさんけいに励むことが、健康なご信心を育てます。

(松風寺月報 令和3年8月号)